

2025年11月22日配布

第382回山口西田読書会（2025年11月8日開催）の Protokol

行武要記

1 テキスト

『働くものから見るものへ』^{*1}「知るもの」「三」の第4段落341頁1行目から同段落342頁6行目まで

2 キーワードないしキーセンテンス

「自同的判断が単なる同語反復にあらざるかぎり、一般者の自己限定でなければならぬ。」（342, 5－6）

3 考察ないし問い

「…実在は現実そのままのものでなければならない」（ZK10－9）^{*2} — この言葉は西田自身の根本的な基底をなしている。

そして、我々にとって、「現実」とは〈日常〉そのものであり、とびっきりな日常も、何気ない日常も、すべてがかけがえのない〈日常〉である。我々は、ここにおいて「唯一なるものの判断的知識」を得る。

ところで、その知識の基礎たる「自同的判断」は、更に同一律を基礎とすると思料するのだが、如何だろうか。

*1 『西田幾多郎全集 第四巻』第三刷（1979年）岩波書店

*2 『善の研究』第8刷（2018年）岩波書店